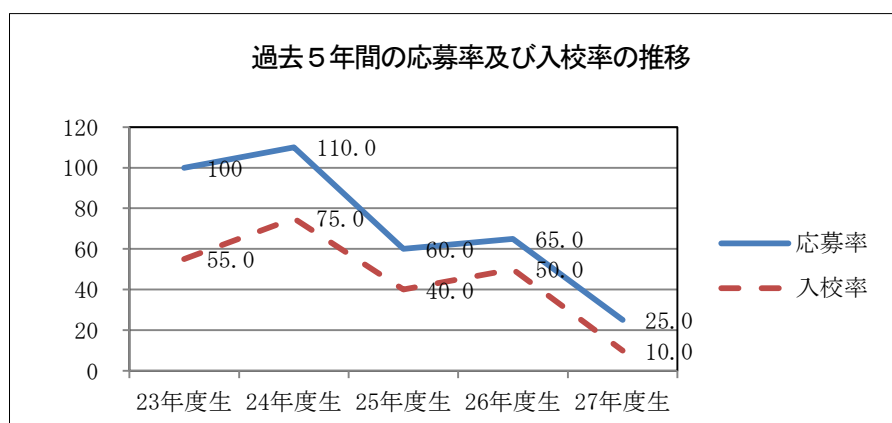


事業名「地域と育てる明日の技能者育成事業」

1 現状と課題

むつ高等技術専門校の木造建築科は県内で唯一中学校卒業生以上を対象とする学科であり、将来、建築大工を目指す若年者のための職業訓練を実施しているが、県内の少子化の進行や中卒者の高等学校への進学率向上（平成27年12月16日現在99.2%）により、入校生の数が年々減少している傾向にある。

近年、入校している訓練生は、高等学校中退、中学校時代から長期間の不登校、学業不振、心身のハンディキャップや障害、経済的理由から高等学校進学を断念するなど、前向きに取り組む気持ちや自尊感情が低い訓練生が年々増加している。



以上のことから、中卒課程の入校率の向上と訓練生の自尊感情を育成し、就職先で即戦力として活躍できる人材の育成が課題となっている。

また、校のある下北地域は、少子高齢化や人口減少の進行で地域の活力が失われつつあり、さらに地域の課題は複雑化、多様化している。特に県内でも一人暮らし高齢者の割合が高く、一人暮らし高齢者の支援活動や観光における地域資源の活用が求められている。

2 事業概要

むつ高等技術専門校の木造建築科で学ぶ知識・技能を活かし、地域の問題解決に協力する職業訓練（地域高齢者の住宅の修繕、観光地でのベンチ作成等）を中学校教員、生徒及び保護者に見学してもらうことにより、むつ高等技術専門校に対する認知度やイメージを向上させ、入校生の増加につなげるとともに、現場での経験、地域への貢献を通じて、訓練生の自尊感情を育成し、中途退校者の減少、就職先での即戦力化を図る。

【4つの具体的な取り組み】

① 地域に貢献する職業訓練展開事業

- 地域と交流しながら、職業訓練を展開
- (1) 景観スポットリメイク事業
 - (2) 高齢者宅リペア事業

② 「むつ技専」認知度向上事業

- 技術力向上、人格形成、地域活性化に資する技専校をPR
- (3) 施設見学会の開催
 - (4) 施設紹介パンフレット・DVD制作

3 事業内容

① 地域に貢献する職業訓練展開事業（地域と交流しながら職業訓練を展開）

(1) 景観スポットリメイク事業

景観スポットリメイク事業は、地域に貢献する職業訓練を展開して地域の問題解決を目的としていることから、NPOや地元自治体等と相互理解しながら進めていくことが重要である。そのため、お互いを補完し合いお互いの特性を活かすことで相乗効果が生まれ、大きな事業効果が期待できる「実行委員会形式」（仮称「ものづくりでまちづくり実行委員会」）で事業を進めていく。

①内容

学校のある大湊地域で訓練生の活躍できるフィールドを拡大するため、地域と交流しながら地域住民とともに、まち歩きコンテンツとして活用が期待される景観資源のリメイク（大湊らしさが残る湧水や井戸・坂道の景観資源を多くの方に知ってもらえるようにすることと、散策途中で休憩をすることができるベンチの設置）をむつ市のまちづくり補助金制度を利用して実施する。

◇湧水群のリメイク

【現状】



【リメイク後（イメージ）】



遠くからでも湧水や井戸だということが分かりやすいように工夫する。

◇散策途中で休憩をすることができるベンチ



県産材や間伐材を利用し、地域の方や散策する方が親しみやすいベンチとする。また、坂の途中にベンチを設置する場合は、坂の勾配にあわせてベンチの脚の長さを調整する。

②意義（期待される効果）

- ・少子高齢化や経済情勢の変化とともに地域のニーズは多様化していくため、今回の事業について在学中に取り組むことで、今後、地域の担い手として自分たちが望む地域の課題や問題を考えるきっかけとすることができる。
- ・地域の問題解決に職業訓練を通じて協力することで、地域全体の活性化や地域社会の再生につなげることができる。
- ・事業を通して多様な人と数多く接し、広い範囲での人間関係の形成や社会性、コミュニケーション能力を育み、訓練生の人格形成につなげることができる。

◇「ものづくりでまちづくり実行委員会」構成名簿

区分	所属	役職	氏名
NPO等	むつ下北子育て支援ネットワークひろば	代表理事	小川 千恵
	一般社団法人下北観光協議会	事務局	中川 隆浩
	大湊新町町内会	会長	辻 登志雄
	市民協働まちづくり会議	元委員	祐川 静枝
民間	有限会社ヒバログホーム	代表	中川 渉
	有限会社大湊印刷	専務取締役	立花 一行
	むつ市生活介護サポーター連絡協議会りんどうの会	健康相談員	伊藤 和子
	むつ建築組合	組合長	成田 正幸
行政	下北地域県民局地域連携部地域支援室	室長	中野 颯
	むつ市建設部都市政策課（みどりと景観グループ）	グループリーダー	飛内 義雄
	むつ高等技術専門校	校長	佐藤 徳衛

☆むつ市希望のまちづくり補助金制度の概要（平成28年度）

1 対象団体

営利を目的とせずに活動を行う団体。

2 対象事業

地域の課題解決や活性化を目的に実施する公益性のある事業で次の要件を満たす事業。

- (1) 団体が自ら企画、立案、実施する事業
- (2) 平成28年4月1日～平成29年3月31日までに完了する事業

3 補助金の金額

新規・継続を問わず、1団体20万円を上限とし、補助率は4/5とする。

4 補助対象経費

費目	内容
報償費	外部講師謝金
旅費	講師の旅費・交通費
広報費	印刷費、広告料
需用費	消耗品費、印刷製本費等
役務費	郵送料、保険料
委託費	外部に業務委託する費用
原材料費	木材、コンクリート等
使用料・賃借料	機器類、会場の使用料

(2) 高齢者宅リペア事業

①内容

下北管内の一人暮らし高齢者の割合は年々増加しており、安心安全に暮らすための支え合う地域づくりが必要である。そのため、一人暮らしの高齢者宅を訪問して住宅の補修や小規模修繕を行い、日頃学んだ木造建築に関する知識・技能を活かし、自分たちにしかできない活動として地域福祉に貢献する。

下北管内の高齢者割合

市町村名	総人口(人)	65歳以上割合(%)	一人暮らし高齢者割合(%)
佐井村	2,293	38.42	16.46
風間浦村	2,152	37.92	17.28
東通村	6,978	29.92	14.56
むつ市	61,477	28.00	12.24
大間町	5,817	26.96	14.92

(平成27年2月1日現在、県まとめ)

◇事業を進める手順

①住宅の補修や小規模修繕の聞き取り	地域にある※地域包括支援センターを窓口とし、当該センターの保健師・社会福祉士・主任介護支援専門員等が一人暮らしの高齢者宅を訪問した際に住宅の補修や小規模修繕の要望について聞き取りを行う。
②住宅の補修や小規模修繕のリストアップ	一人暮らしの高齢者から要望のあった住宅の補修や小規模修繕をとりまとめてリストを作成する。
③住宅の補修や小規模修繕の選定	とりまとめたリストを基に、校で実施する住宅の補修や小規模修繕を選定する。
④事前指導	訓練生に事業の目標と意義を説明し、明確な目的意識を持たせる。
⑤現地調査	指導講師及び職員、訓練生が現場を確認し、住宅の補修や小規模修繕をする箇所がどのような状態か確かめる。訓練生は指導講師及び職員の指導のもと、依頼者宅の調査計測を行うとともに依頼者の要望を聞き取る。
⑥事前準備	現地調査をした結果をもとに、校の実習場で必要とする部材の加工を行う。
⑦補修・修繕	依頼者とのコミュニケーションにより、信頼を得ながら依頼者の生活状態に合わせた補修・小規模修繕とする。
⑧事後指導	事後指導として活動内容に対する自己評価、活動状況をまとめ、最終的に報告書を作成する。

※地域包括支援センターは、市町村が設置主体となり、保健師・社会福祉士・主任介護支援専門員等を配置して、3職種のチームアプローチにより、住民の健康の保持及び生活の安定のために必要な援助を行い、その保健医療の向上及び福祉の増進を包括的に支援することを目的とする施設。

②意義（期待される効果）

- ・校内では教科書に書いてある知識や技能を学ぶことができるが、実際に現場で作業をすることにより、教科書とは異なる知識や技能の応用を学ぶことができる。
- ・現場で柔軟な対応を取ることで、作業の効率化について学ぶことができる。
- ・事業活動を通して、校内では味わえない現場の雰囲気を経験することができる。

- ・依頼者から感謝の言葉や褒められることが訓練生の自信につながり、自尊感情を育成することができる。
- ・地域福祉へ貢献するとともに、高齢者に対する優しさや思いやりの心を養うことができる。

2 「むつ技専」認知度向上事業（技術力向上、人格形成、地域活性化に資する技術専門校をPR）

（1）施設見学会の開催

①内容

木造建築科に関心のある中学校教員、生徒及び保護者を対象に、実習状況を見学し、訓練生と触れあいながら「むつ技専」を直に体験して理解を深めてもらうために、県内6地域（東青地域、中南地域、西北地域、三八地域、下北地域、上北地域）から見学バスツアーを実施する。

②意義（期待される効果）

- ・パンフレットの写真だけでは伝えることができない建築大工の伝統的な技、普段なかなか見ることができない木造住宅の構造など建築の魅力を入校希望者に直接伝える機会を提供することができる。
- ・入校希望者は、むつ技専校の環境や雰囲気を知った上で、今後の進路について検討することができる。
- ・中学校の進路指導をする教員に参加してもらうことにより、木造建築科で実施している訓練や実習を見て体験することができるため、今後の進路指導において生徒に詳しい情報提供が可能となる

（2）施設紹介パンフレット・DVD制作

①内容

施設見学バスツアーの様子、高齢者宅リペア事業、景観スポットリメイク事業及び訓練実習の取り組みの様子を納めたパンフレット及びDVDを制作する。

②意義（期待される効果）

- ・校を紹介するツールとしてはパンフレットが一般的であるが、文字と静止画で伝えられる情報には限りがある。また、興味が有るかどうかわからない校のパンフレットを能動的に読んでもらうのは非常に困難であることから、パンフレットの代わりに学校紹介映像を製作し、DVDやWEBなどで配布すれば、より多くの情報量を読み手の手間を取らずに分かりやすく伝えることが可能となる。
- ・翌年度の中学校訪問時に各中学校にDVDを持参し、パンフレットと併せて配布することができ、中学校で開催される生徒への進路説明会やPTA進路説明会時に中学校の理解が得られれば、校の職員が中学校へ出向いてDVDを上映しながら校の概要説明を具体的に実施することができる。

4 事業終了後のロードマップについて

1 外部講師のノウハウを吸収して今後の訓練に反映

平成 28 年度から平成 29 年度に実施する景観スポットリメイク事業及び高齢者宅リペア事業において、木造建築科の指導員が訓練生と一緒に技術指導をして頂く外部講師の知識・技能・技術のノウハウを吸収し、今後の通常訓練に反映させることができる。

2 訓練生募集のPR資料として活用

景観スポットリメイク事業で実施する湧水群のリメイクやベンチの設置、高齢者宅リペア事業の軽微な住宅改修工事の取り組み状況をDVDに映像として残し、以降、むつ技専校のPR資料として公共職業安定所が実施するガイダンスや中学校が行う進路説明会で使い回すことができる。

3 モデル事業として他校へ波及

地域の問題解決に職業訓練を通じて協力し、地域により必要とされる技専校となるためのモデル的取り組みとして実施することにより、他校（青森技専校、弘前技専校、八戸工科学院、障害校）にも実施するノウハウを伝え、地域に貢献する職業訓練を全県的に展開していくことが期待できる。

また、むつ技専校の通常訓練の中にこの取り組みを追加することにより、地域全体の活性化や地域社会の再生に貢献していくことができる。